

World University Championship Sailing を終えて

文書：山田 剛士
小倉 隆弘
山下 剛
尾崎 玄弥
中川 健太

【挨拶】

まず初めに、9月25日～9月30日にかけて行われたユースマッチレースワールド参加にあたり、日本セーリング連盟の皆様、相談役としてサポートして頂きました委員長の中澤氏をはじめとするキールボート強化委員会の皆様には大会参加へのご理解・ご協力頂きまして有難うございました。出場メンバー一同心から感謝申し上げます。

日本代表として出場致しました、本大会におきまして大会レポートを作成致しましたのでご一読頂ければと思います。

【結果報告】

日本：7位

成績：

(オープンクラス・ラウンドロビン)

WORLD UNIVERSITY SAILING CHAMPIONSHIPS RESULTS SUMMARY

Skipper No	Skipper Name	RR1 Points	RR1 Matches Sailed	RR2 Points	RR2 Matches Sailed	Stage 1 Total Points	Stage 1 Matches Sailed	Final Ranking
1	FOLLIN - FRA	5	8	4	8	9	16	5
2	DARGAVILLE - AUS 2	5	8	6	8	11	16	3
3	BOULDEN - AUS 1	8	8	8	8	16	16	1
4	MILLER - GBR	3.5	8	6	8	9.5	16	4
5	GALATI - ITA	7	8	6	8	13	16	2
6	YAMADA - JPN	2	8	3	8	5	16	7
7	LIM - SIN	4	8	2	8	6	16	6
8	LEE - KOR	0	8	0	8	0	16	9
9	ZHOU - CHN	1	8	1	8	2	16	8

(女子クラス・ラウンドロビン)

Skipper No	Skipper Name	RR1 Points	RR1 Matches Sailed	RR2 Points	RR2 Matches Sailed	RR3 Points	RR3 Matches Sailed	Stage 1 Total Points	Stage 1 Matches Sailed	Final Ranking
1	BEZEL - SUI	5	4	6	4	0	4	11	12	1
2	PARKER - AUS	4	4	3	4	0	4	7	12	3
3	BONAFOUS - FRA	1	4	3	4	0	4	4	12	4
4	KOH - SIN	4	4	4	4	0	4	8	12	2
5	PARK - KOR	0	4	0	4	0	4	0	12	5

(オープンクラス及び女子クラス・ファイナル)

RESULTS SUMMARY											
SEMI FINAL 1 Winner to Final Loser to Petit Final BOULDEN - AUS 1 1 1 2 1 MILLER - GBR 0 0 0 0 2			SEMI FINAL 2 Winner to Final Loser to Petit Final GALATI - ITA 0 0 0 0 2 DARGAVILLE-AUS 2 1 1 2 1			SEMI FINAL 1 Winner to Final Loser to Petit Final Final BEZEL - SUI 1 1 2 1 BONAFOUS - FRA 0 0 0 2			Winner to Final Loser to Petit Final Final KOH - SIN 0 0 0 0 2 PARKER - AUS 1 1 2 1		
PETIT FINAL GALATI-ITA 1 1 2 1 MILLER-GBR 0 0 0 2 Winner placed 3rd Loser placed 4th			FINAL BOULDEN-AUS 0 0 0 0 2 DARGAVILLE-AUS 1 1 1 3 1 Winner placed 1st Loser placed 2nd			PETIT FINAL KOH-SIN 1 1 2 1 BONAFOUS-FRA 0 0 0 2 Winner placed 3rd Loser placed 4th			FINAL BEZEL-SUI 0 1 0 1 PARKER-AUS 1 0 1 2 Winner placed 1st Loser placed 2nd		
FINAL PLACINGS - OPEN WINNER AUS - DARGAVILLE 3rd ITA - GALATI 5th FRA - FOLLIN 7th JPN - YAMADA 9th KOR - LEE 2nd AUS - BOULDEN 4th GBR - MILLER 6th SIN - LIM 8th CHN - ZHOU					 FINAL PLACINGS - WOMEN WINNER 2nd 3rd SIN - KOH 4th FRA - BONAFOUS 5th KOR - PARK						
											

【大会概要】

- ・大会期間：9月25日～9月30日
- ・開催地：オーストラリア パース
- ・大会名：World University Championship Sailing
- ・参加国：日本・オーストラリア（2チーム）・イギリス・イタリア・フランス
シンガポール・韓国・中国
- ・大会日程：1日目 体重計測 公式練習 開会式
2日目 ラウンドロビン①
3日目 ラウンドロビン②
4日目 ラウンドロビン③
5日目 決勝ラウンド①
5日目 決勝ラウンド② 閉会式

【大会レポート】

9月25日～9月30日まで、オーストラリアのパースで大学生マッチの世界選手権・ユニバーシアードに出場してきました。ユニバーシアードは大学生の世界チャンピオンを決める大会で今大会では9ヶ国が参加し、予選ラウンドロビンでは各国と二回ずつ対戦することによって順位を競い合いました。

私たちの結果は7位で終わり、日本チーム一同、マッチレースの世界との実力の差を感じ、反省も多く、課題の残る大会となりました。

・初日

迎えたレース初日はオーストラリアチームの対戦から始まり、ラウンドロビンで7か国と対戦し、2勝5敗と厳しいスタートを切りました。内容としては、36feetという大きさの船をコントロールしきれず、他国のボートコントロールに差を感じました。スタートのマニューバで船を止めてしまって、前半が有利な展開でもコントロールポジションを取られるといったシーンが多くみられる初日となりました。

・2日目

強風化でMAX25knot程の風でしたが、初日の反省を活かし、レースの合間を使ってメンバーで息を合わせ、前日にSam Gilmour氏にアドバイスを頂いたこともあり、ボートコントロールの面では初日に対しはるかに良くなっていきました。第9フライトのAUSBoulden（初日1位、最終2位）とのマッチではスタートから先行し、下マークまで勝っていたが、スコールのような雨雲とともに風が不安定になり、シフトと走らせ方が合わず、抜かれてしまうという惜しい場面に印象に残っています。

3日目

微風～中風で迎えたラウンドロビン最終日。

FRAのFollin（世界ランク15位）との一戦が印象に残っています。スタートでセパレートし、ファーストブローを掴んで、相手をフォープレスに持って行き下マークまで差を開かせるも、逆に2上レグではワンシフトで大きくゲインされ、その後タッキングマッチでスピードを無くし、二上で負けるという展開となりました。

また、ラウンドロビン最終レースITAのGlattiに対し、スタートから先行し、シフトとタックでのポジショニングを上手く運び二上まで先行を守り切りました。そこで、ポールセットをし、オフセットマークを回ってホイストせず相手のスピニングを確認してから下にオーバーラップしラフィングする戦略を取りました。相手はスピニングが上がっているため対処するだけの時間は十分与えながらラフィングしたと自認していたのですが、レッドフラッグによるペナルティを受け敗北しました。FRAとのマッチではセーリングストラテジーと未熟さ、ITAとのマッチではルール内での攻撃・守りの甘さを痛感したレースでした。

4日目

4日目は～10knot前後の微風の中で順位決定戦を行い、CHIのZhouとの戦いでした。

これまで二回戦ってきた感覚でボートコントロールにはアドバンテージがあるのもわかっていたため、スタートから船を止めないことを意識し、タックマッチ等で差をひらかせることができ、連勝2勝して7位に決定致しました。

以上が大会総括ではありますが、続いて今回のメンバー各々が自己紹介並びに大会を通じて感じたことまとめておりますのでぜひご一読下さい。

【選手紹介】

① スキッパー山田剛士

・選手情報

1994年2月27日生 175cm62kg 同志社大学ヨット部OB

・主な経歴

2008年：OPアジア選手権大会出場

2009年：九州選抜大会優勝

2010年：沖縄高校総体個人・団体ともに優勝

2011年：秋田高校総体団体優勝

2012年：全国学生ヨット選手権大会優勝

2013年：全国学生ヨット選手権大会優勝

2014年：全国学生ヨット選手権大会準優勝

2015年：全国学生ヨット個人選手権優勝

2016年：学生マッチ2016 優勝



今回の大会ではAndy Fethers氏、PeterGilmour氏など多くの世界の最前線で奮闘してきた選手と関ることができました。しかし、聞きたいことも私たちの英語では聞きれない部分も多くあり、語学力の足りなさを痛感しました。

マッチレースの経験値で言えば、学生マッチ、伊藤園マッチ等の国内大会をはじめ、国内屈指のマッチのベテランSiesta team、との練習、メンバーの国際大会出場など、学連ヨットを卒業してからマッチレースを始めてから、練習を積んできましたが、今大会を通じて一番感じたことは「場数の少なさ」です。

各国の選手は普段から30feetを超えるボートに乗り、マッチを練習する日々を過ごしています。今の自分たちに何ができるのか。時間、資金、環境をメンバーと相談し、次のチャレンジに向けて動き出していきます。

スキッパー 山田剛士

② メイントリマー小倉隆寛

・選手情報

1994年8月9日生 174cm66kg 立命館大学4回生

・主な経歴

2012年：国民体育大会山口国体出場

2014年：関西ミドルボート選手権準優勝

全日本ミドルボート選手権優勝

X-35全日本選手権準優勝

全日本ボードセイリング選手権団体戦8位

2015年：大学対抗&U25ヨットマッチレース5位

Nantes University Sailing Cup 出場

Asia Pacific Student Cup 出場

関西ミドルボート選手権優勝

全日本ミドルボート選手権準優勝

X-35全日本選手権準優勝

2016年：All Japan Youth Matchrace Championship 3位

Matchrace Thailand 出場



今大会、私自身はマッチレースでの海外レースは5回目かつキールボート経験もチーム内で最も多いということもあり、ディンギーでは輝かしい成績を収めてきたもののまだこの分野での経験は浅い他のメンバーを“マッチレース”“キールボート”の面において全力で補うボートマネジメント、レースが問題なく行えるよう大会側やセーリング協会とのやり取りを綿密に行うチームマネジメントの2点に重点を置き取り組みました。こうした役割を任せられ、責任を持って仕事を行う経験はセーリング面・人間面の両面において大きく成長させてくれたと感じております。

さて、本題でもありますレースを通して感じたことでありますが、率直に「優勝したAUSはじめこの海外勢を相手に勝っていくためには人生を賭けてヨットをする以外ないのではないか」という事です。予選ラウンドロビン終盤では、入賞チームたちを相手に互角にレースし、先行してレース展開するところまではきましたが勝ち切れなかったというのが現状です。大会期間中チームはぐんぐんと成長し、非常に大きなやりがい・楽しさを感じましたが、「あと一步」に大きな壁を感じたことも事実であります。この壁を打ち破るためにも出場が決定した1月末にオーストラリア・パースで開催されるWarren Jones Youth Regattaでは何としてでも足掛かりにある結果をと考えておりますし、今後も継続してチーム一丸となりより良い競技環境を構築すべくヨットに対して真摯に取り組んでいく所存であります。

まずは自分たちが何を指すのか・どういった計画で活動を進めていくのか等を固め、全力で取り組んで参りますので、どうか皆様からもアドバイス・ご指導いただきたく思います。何卒宜しくお願い申し上げます。

メインセールトリマー

小倉隆弘

③ ヘッドセールトリマー山下剛

・選手情報

1993年12月6日生 178cm72kg 同志社大学ヨット部OB

・主な経歴

2010年：全国高校選抜優勝

近畿総合体育大会優勝

2014年：全日本インカレ準優勝

ナショナルチーム選考会5位

2015年：全日本個人インカレ6位

ナショナルチーム選考会4位

2016年：全日本学生マッチ2016優勝

J/24世界選手権8位



【今大会を振り返っての感想】

こんにちは。ユニバーシアード日本代表の山下です。まず初めに我々の今レガッタの挑戦を応援し、支えて頂いた全ての方々に感謝の気持ちを申し上げます。本当に、ありがとうございました。

今回の大会で私の立場から感じたことをまとめます。

①まず初日、我々が宿泊施設に到着した時に驚いたのは体格の壁でした。そこにいたのは例えアジア系であったとしても75kgは少なからずあるであろう選手たちでした。対する私たち日本チームは重くて75kg。チームの総合体重は全チームでワースト2位と言う現状でした。幸いな事に、艇種にも救われて強風下のクローズホールドであまりに大きな差を見せられるような事はなかったのですが、別の艇種だとどうだったでしょうか。海外選手は無駄のない学生の体付きでこの現状ですから、今後を見据えて各個人80kgを目標にトレーニングに励まなければなりません。

②マッチレース技術の基礎の欠落。ルール然り、艇の裁き然り、タクティクス然り、ストラテジー然り、まだまだ学生ディンギーセーラーレベルを抜け出せていません。上記項目のどれか一つの欠点がレース中に露わになり、勝てたゲームも落としてしまいました。例えば最後のイタリアチームのGaratti選手とのマッチ。2上マークを先行して回るも、回航後に過度なラフィングマッチを仕掛けて自分たちがペナルティを受けました。勿体無いレースを今後しないように、一つ一つ課題をしらみ潰ししていきます。

④ どんな艇種でもすぐに最高のスピードを出せる事の重要性。

私はFJ, 470, J24, Platu25, X35, J70, Y30といった艇種に乗ってきました。それぞれに個性があり、乗るたびにその艇のベストをヘッドセールトリマーというポジションから引き出そうとしますが、毎度その個性に困らせられます。今回のFoundation36は大型艇の割には軽風域においてスピネーカーにパワーをしっかりと持たせないと、スワンリバーの平水面でもすぐ止まるなどの一面を見せてくれました。こうした特徴をすぐにつかめるように感覚を研ぎ澄ますことや艇の下調べでどんな特徴があるのかを予測できるようなセーラーになりたいと思いました。

【最後に】

今回の大会に先駆けご支援・ご協力頂きまして本当に有難うございました。必ず次に繋がられるように、しっかり反省し努力していきます。今後とも変わらぬ支援とご声援のほど、よろしく申し上げます。

ヘッドセールトリマー
山下 剛

⑤ バウマン尾崎玄弥

・選手情報

1994年3月22日生 177cm74kg 甲南大学OB

・主な経歴

2011年：全国高等学校選抜ヨット選手権大会優勝

：近畿高等学校ヨット選手権大会優勝

：全国高等学校総合体育大会5位

：国民体育大会山口国体5位

：国際420級JOCジュニアオリンピックカップ準優勝

2012年：420級アジア選手権大会出場

420級世界選手権大会出場

2014年：スナイプ級ジュニアヨット選手権大会優勝

ヨット西半球&東洋選手権出場



私は、今回バウマンを担当致しました。FOUNDATION36自体にも全く乗ったことがなく、キールボートもこのメンバーの中では一番乗艇回数が少ない人でした。そんな不安もある中、とりあえず初日の練習でどれだけつめられるか、そして、日々改善できる点はないか、を考え毎日レースに挑みました。初日の練習前不安であったのではバウマンとしての役割の確認です。「バウマンはこの仕事をしていたらいいのかな」と自分で処理するだけでなく「メンバーにこの役割は自分がするから、このサポートをお願いします」と役割分担し確認しました。次に、スピニアップの流れのスムーズ化、スピンドアンの流れのスムーズ化を意識しました。私自身このポイントがバウマンとして一番重要なポイントだと感じました。どれだけ早くスピンを張らまし、どれだけギリギリまでスピンを張ることが可能になるか、そのカギを握るのがこの瞬間だと感じました。そんな中、一番悩まされていたのが、スピンドアンでした。必ず、回航中にスピンをしまう作業を行っていました。そこで、スピンドアンを始めるタイミングを早めるという考えもありましたがそうしてしまうと、早くにスピンをつぶしてしまうというロスが発生していました。この課題は最終日まで持ち込んでしまいました。ですが、二日目の夜、チームとミーティングを行いバウハッチの中でのスピンドアンを行うと今まで以上のスピードでスピンドアンを行うことができました。そして、最終日のメダルレースでは、オーストラリアのスピニアップの動画を収め、自分と全くスピニアップのスピードが違うことに圧倒されました。全身を使っのスピニアップには練習が必要だと感じました。

今大会、学ぶことが多く個人としてチームとしてかなりレベルアップしました。海外チームのベストパフォーマンス、海外コーチからの指摘を受けれたことをとてもうれしく思っております。ありがとうございました。

バウマン
尾崎 玄弥

⑥ 中川健太

・選手情報

1994年1月13日生 176cm75kg 同志社大学ヨット部OB

・主な経歴

2012年：全日本個人インカレ優勝

全日本インカレ優勝

2013年：全日本インカレ優勝

2014年：全日本インカレ準優勝

2015年：スナイプジュニアワールド選手権 6位

2016年：全日本学生マッチ2016 優勝



今回のユニバーシアードを通して感じた事。

1. 海外チームに対してクルーワークの完成度が足りていなかった。

今回のレースでは海外の有力選手に相手に先行する場面もあったが、タックやジャイブ、スピンup、downでの自艇のクルーワークのミスでチャンスを逃す場面が多かった。私自身ピット兼テラーとしてレースに臨んだが、慣れない船での動作ではミスが多く、船を上手くコントロールできていなかった。スピン関連の動作に関してもまだまだ動作の正確性、およびスピードのアップが必要だと感じた。オーストラリアなどの上位チームは特にスピン関連の動作が素早く、クルーワークでのロスが少なかった。今後は今回手に入れた上位チームの動作の映像などを基に練習を積み、バウマンとのコンビネーションを向上させる必要があると感じた。

2. マッチレースに対する知識、経験が足りなかった。

私自身マッチレースの経験は3回と浅く、レース中相手の動きに対して自分たちがどうすればいいのかわからない場面が多かった。今後はメンバー一同、積極的にマッチレースに参加して経験を積むことでマッチレースに馴れ、知識や技を身に付けていく必要があると感じた。

以上を持ちましてユニバーシアード総括レポートの締めくくりとさせていただきます。皆様には多くの応援をいただきましてありがとうございました。そしてこの大会をスタートとし、今後も続いていく私たちの活動を今後とも応援いただきますよう重ねてお願い申し上げます。

ピット兼テラー
中川 健太

以上

【参考資料】

今大会出場において、今後のセーラーの発展に少しでもお役にたてればと思い、参考までにかかる費用を下記に記載致します。

■エントリー費

※日本セーリング連盟負担

¥0 円

■ホテル代

¥0 円

(大会推奨の学生寮)

※大会負担

■航空券

¥120,000 円

(Air Asia 航空 一人往復の場合)

※個人負担

■大会費用

●ダメージデポジット

¥150,000 円

(艇の紛失等なければ全額バック)

※個人負担だが JYMA 支援金 ¥150,000 円を活用

■その他費用

¥30,000 円

以上

